

別紙1 取組状況の概要

【まちづくりの施策に係る重点取組】

重点取組項目	取組内容	18年度 取組結果	評価( )と来年度に向けた改善点・方向性( )	担当部
誰もが安心して暮らせる地域づくり	防災への行政対応力、地域防災力の向上 区民や各関係機関との連携と、防災行動ガイドブックの普及や同書を題材とする災害図上訓練(DIG)の実施などを通じて、地域防災力と、区役所職員の災害対応力の向上に取り組む。	区民の防災意識、地域防災力の向上を図るため、下記の取組を実施 防災ガイドブックの配布(4,000部) 災害図上訓練(DIG)及び講演会(2地区47人) 防災訓練(3地区305人)、防災リーダー研修(44人) 区庁舎消防訓練及び区災害対策本部運用訓練の実施 区災害対応マニュアル(加除版)を作成	地域防災力及び職員の災害対応力の向上が図られた。特に、区災害対策本部訓練は、関係機関との連携や区災害対応マニュアルの作成に有益であった。庁舎消防訓練に多くの職員が参加できるように回数及び訓練内容の見直し。区災害対応マニュアルの継続的な見直し 災害対応における地域との連携について、要援護者の把握を含めて検討	市民
	地域防犯・交通安全運動の推進 本庁主管部局で計画している、地域防犯に関する全市的な指針となる「札幌市地域防犯ガイドブック(仮)」の策定に全面協力しながら、各地区防犯組織と連携を図るなど、防犯の推進に努める。また、区民や交通関係団体、警察との連携により交通安全運動を広げていく。	地域防犯の取組み 各地区まちづくり会議、地域自主防犯組織の会合への出席と防犯情報交換会の開催 公用車による防犯パトロール(青色回転灯装着)を実施 交通安全運動の取組み 春・夏・秋・冬の交通安全運動の街頭啓発(延べ1689人) 違法駐車防止パトロールの実施(6地区各2回、延べ320人、460台ステッカー指導) 電柱巻き付け交通注意看板の設置	各地区防犯活動状況を把握 H18年は区内の交通事故死者数2名(対前年比3名減) 本庁主管部局で計画する地域防犯事業への協力 警察等、防犯関係団体との情報交換を通じて防犯取組みの推進 区民や交通関係団体、警察との連携により交通安全運動を拡大	市民
	健康・福祉のまちづくり推進 厚別区健康づくり懇話会や「あつべつ健康・福祉フェスタ」「介護予防講座」などを通じて、健康・福祉のまちづくりを進める。	健康的な地域づくり、まちづくりを目指す「健康あつべつ宣言」の一層の普及・啓発 健康教室等の会合で全員朗読、地区センター等9施設に宣言パネル設置、郵便封筒に宣言文を押印発送(約50,000件) 区役所1階ロビーに「健康づくり情報コーナー」を設け、自動血圧計設置(利用4,500人)、パンフレット・ポスターによる情報提供 「あつべつ健康・福祉フェスタ」の実施(参加600人) 講演会「笑いと健康」、体力・健康測定、食生活改善展、健康相談など 健康づくりリーダーによる健康教室、体力測定等事業(6地区256人参加) 「介護予防講座」を2地区4会場で計12回実施(延べ296人参加) 介護予防自己チェックリストを地域包括支援センター、介護予防センターに配付(1500部)、健康・福祉フェスタでPR(200部配布)	「健康あつべつ宣言」をより多くの区民に周知できた。 自動血圧計利用者が月ごとに増加、コーナー周知と健康意識向上に効果あり。 フェスタ実行委員会の関係団体の連携と「健康さっぽろ21」、「健康あつべつ宣言」等の普及・啓発を促進 健康づくりリーダーの育成と地域組織の連携強化 介護予防講座については、身近な会館で実施したことで参加しやすく、参加者が認知症予防について考える契機となり、好評であった。 介護予防自己チェックリストは介護予防事業で活用、健康・福祉フェスタでも保健師による評価を行ったところ、より効果あり。 健康・福祉フェスタで、子育て中の親子が参加できるプログラム等を工夫 青少年科学館など区内公的施設を活用した介護予防講座を検討 介護予防自己チェックリストの内容改定、引き続きPR、ホームページ掲載	保健福祉
	健康あつべつ宣言 (つくろう！こどもの笑顔とお年寄りの元気があふれる街あつべつ) (声かけ合って支えあい！広がるつながる健康の輪) (健康づくり始めようできること、続けようできたこと) 札幌市厚別区 厚別区健康づくり懇話会			
ふれあいと交流の育まれるまちづくり	三市交流の推進 ファミリー森林浴ウォーキング、近隣三市家庭婦人スポーツ交流大会、近隣市情報交流事業、子育てボランティア・地域支援者講演会・交流会などの事業を通じて、近隣三市住民の親睦と相互交流を図り、人的ネットワークを広げていく。 三市交流：江別市、北広島市との交流	森林浴ウォーキング(野幌森林公園) 3市410人参加 パークゴルフ大会(江別市) 3市183人参加 家庭婦人スポーツ交流大会(江別市) 2日間 3市363人参加 区民まつりにおいて、三市の郷土芸能を披露、PRコーナー設置、近隣市を紹介するパンフレットの配布、特産品の販売 若者を対象とした「新さっぽろアートステージ」(サンピアザ劇場)を開催 3市12組63人出演、観客288人	三市の事務レベルの打合せ会議を年2回開催し、個々の事業の協力関係や見直し点などを相互に検討しながら進めたことで、連携による事業効果の理解が深まった。 パークゴルフ人気の課題や問題点解決に向けた情報交換の場としても意義があった。 家庭婦人スポーツ大会は、今年度から3市による会場持ち回りとし、江別市で開催、スムーズに運営できた。 ウォーキング、アートステージの来場者数増加等を検討。スポーツ交流大会の会場は北広島市、運営は厚別区が行う。	市民
		子育てボランティア、地域支援者を対象とした講演会、情報交換・交流会を厚別区で開催 2日間 3市231人参加 江別市、北広島市で担当者会議を開催し、来年度の開催内容等について検討	講演会は、約7割から好評を得た。 開催期間を半日ずつ2日間から1日午前午後に変更、厚別区で開催	保健福祉
	芸術・文化・生涯学習環境づくりの推進 誰もが気軽に参加できる文化イベントの開催などを通じて、区民の芸術・文化意識を高め、身近な施設や人材を生かした生涯学習環境づくりを進める。	ふれあいプログラム 若年層をターゲットに札幌吉本興業若手芸人による「新さっぽろお笑いステージ」(サンピアザ劇場)を開催 観客198人 アカペラフェスティバル(サンピアザ劇場)を開催 2日間 観客513人 スローフードやスローライフをテーマとした文化イベント「あつべつ ちょっと大人のカルチャーナイト」(札幌市青少年科学館)を開催 参加者114人	お笑いステージ、アカペラフェスティバルとも、来場者が多く、好評 「あつべつ ちょっと大人のカルチャーナイト」は、定員の3倍を超える応募者があり、好評 「ふれあいプログラム」は、様々なジャンルのステージを提供し、区民が楽しめるイベントを目指す。アカペラフェスティバルの継続実施について、実施主体であるハモサツ実行委員会と協議検討 「あつべつ ちょっと大人のカルチャーナイト」は、他の教育・学習施設での開催を検討	市民

重点取組項目	取組内容	18年度 取組結果	評価( )と来年度に向けた改善点・方向性( )	担当部
	区民ぐるみのイベント開催を通じた交流促進 「区民まつり」への支援、「新さっぽろ冬まつり」や「ワイワイ夏・冬フェスタ」の開催など、子ども、青年、勤労者やファミリー、高齢者を含めた区民ぐるみのイベントにより、地域のふれあいや交流の輪を広げていく。	厚別区民まつりの開催を支援 2日間で10万人を超える来場者、ボランティア等従事者1,500人 第2回新さっぽろ冬まつりをふれあい広場あつべつなどの3会場で開催 3日間 来場者2万人、ボランティア等従事者 1,000人	区民まつりは、飲食コーナーの販売時間を早めたほか、地域 FM ラジオや広告看板の活用により、来場者数と販売金額が増え、協賛金の減少傾向に歯止めがかかった。 冬まつりの運営等に関わった区民が約 800 人に上ったほか、区子ども会連絡協議会が会場の一部の運営を担うなど、今後市民が主体的に関わっていくための素地ができた。 区民まつりを市民自治の象徴として位置づけた地域イベントにしていく。 冬まつりの定着と自立に向けて、関係団体やグループ、企業に働きかけを行っていく。	市民
		子育て中の親子が地域の人たちとつながりを持ちながら子育てできるよう、地域のふれあいイベントである「ワイワイフェスタ」を開催 夏フェスタ 4会場 1,212人参加 ボランティア 11団体 140人、学生スタッフ 8校 192人 冬フェスタ 1会場 467人参加 ボランティア 6団体 33人、学生スタッフ6校 84人 「新さっぽろ冬まつり」の室内事業として「ファミリーフェスタ」を開催 参加者 1300人	「ワイワイ夏・冬フェスタ」は、天候にも恵まれ、多くの区民が参加し、運営も協働で実施し、大きな効果をあげた。 「ファミリーフェスタ」は、家族も多数参加し、大きな効果をあげた。 地域と行政の役割を明確にしながら協働をより深めていく。	保健福祉
環境・都市機能の向上	緑の充実 「花と緑のふれあい事業」や「野津幌川緑地整備」など、区民が緑に触れやすく、緑化活動に参加しやすい環境を整備し、区の特徴である緑をより一層充実させる。	「夢市場あつべつ」(フリーマーケット)において、花苗配布(4月:スペアミント400本、5、7、8月:ブルーベリー各500本) 環)みどりの推進部と協力して実施。 「ガーデニング見学・体験バスツアー」として先進地(恵庭市恵み野)見学と寄せ植え講習会を行った。(参加45人)。 「我が家のガーデニング自慢コンテスト」を実施 応募数 18作品	花苗の配布には長い行列ができるほど区民が参集 「ガーデニング見学・体験バスツアー」には定員の4倍以上の応募、参加者アンケートでも高い評価 「ガーデニング見学・体験バスツアー」は、バス増便の可能性を検討	市民
		野津幌川緑地整備について国道12号線から下流1.7Kmの整備に着手 山本緑地の整備について、みどりの推進部に対して協議を行うとともに、早期着手の要望を行った。	一部区間を除き、予定どおり河川緑地の環境を整備 野津幌川緑地については、来年度整備完了を目指す。 山本緑地については引き続きみどりの推進部に要望	土木
	区民参加による都市施設活用の検討 厚別清掃工場跡地や副都心拠点施設の活用方法などについて、本庁主管部局、関連部局との連携を強め、区民参加による検討を進めていく。	都市局との協議・調整の結果、エレベーター設置による乗り継ぎバリアフリー動線の確保を盛り込んだ「厚別副都心地区の駅周辺整備計画」事業化が決まり、地元団体等へ説明。明確な動線確保については、大きな状況変化等に応じて今後検討することになった。 厚別清掃工場跡地については、パネル展の開催(2回)、区ホームページへの掲載、地元のまちづくり会議での説明など、検討委員会の提言書の趣旨の周知を図るとともに、跡地利用検討ワークショップを開催した。ただし、維持管理・必要最低限の整備に係る予算措置等について関係部局との協議がまとまらず、2回目のワークショップが開催できなかった。	厚別清掃工場跡地について住民と共に考える機会を設けたのは評価できるが、行政側のスタンスが定まらなかったことが大きな課題としてあげられる。 副都心まちづくり事業については、引き続き都市局との連携調整に務める。 厚別清掃工場跡地の課題については、企画部の調整のもと、全庁的なオーソライズを経た上で取り組んでいく必要がある。また、厚別区としても次年度は、試験的な使用を検討する。	市民
環境の保全及び美化活動の推進 自転車の駐輪場への誘導や、ボランティアによるゴミ拾い活動の実施などにより、区民が安全で快適に過ごすことができる環境づくりを進める。	クリーンアップ倶楽部あつべつ(新札幌周辺事業所によるごみ拾い活動)への協力呼びかけ及びオリジナルジャンパーの配付 17団体(2団体新規加入) 参加者数 延べ1,384人(前年比297人増) 区職員ボランティアによる区役所周辺の砂まき・雪割り活動実施	参加団体、参加者数が増加し、新札幌周辺の環境づくりを推進した。 引き続き、協力の呼びかけ及びオリジナルジャンパーの配付を通じて、参加者の増加を図る。	市民	
	JR 森林公園駅及び地下鉄大谷地駅周辺の路上駐輪に対する街頭指導、公的駐輪場への誘導を月2回(7か月で計14回)実施 白石サイクリングロードでは、区内の距離表示を白石区と連携して行った。	街頭指導により路上駐輪が減少し、効果が認められた。 白石区・厚別区・北広島市まで起点から終点までの一連の距離表示ができた。 来年度も路上駐輪防止の街頭指導を実施	土木	

【市民自治の推進に係る重点取組】

重点取組項目	取組内容	18年度 取組結果	評価( )と来年度に向けた改善点・方向性( )	担当部
まちづくりセンターの機能強化	まちづくりの拠点として、まちづくり会議の活動支援、地域の各種団体や人材のネットワーク化支援などにまちづくりセンターが適切に対応できるよう、区役所の支援体制も強化する。	各地区まちづくり会議及び区まちづくり協議会の円滑な開催に向け、予算面及び人的面から支援を行った。 各種イベントの実施やHPの開設などの支援を行った。 区役所内支援組織であるまちづくり委員会・幹事会で対応を協議した。	各地区まちづくりセンターにおいて、各種事業を実施できるように支援した。 まちづくり委員会幹事会で支援方法等を各まちセン所長とともに検討した。 地域課題について、更に地域住民自らが関与していけるよう支援を継続	市民
区民との協働の推進	少子高齢化への対応、安全・安心なまちづくりなど、地域の課題解決に向けた町内会、まちづくり会議、福祉のまち推進センターでの検討や活動を積極的に支援する。	厚別区まちづくり協議会において、「副都心機能」、「防犯・防災」、「文化・生活」、「環境」及び「健康・福祉」の5部会から、検討内容の報告が行われた。 各地区まちづくり会議及び区まちづくり協議会の円滑な開催に向け、予算面及び人的面から支援を行った。 地区まちづくり会議の開催状況 6地区 合計14回 区まちづくり協議会 4回、同運営委員会 11回	中間報告は成功裏に終了し、現在、最終報告に向けて順調に作業を進めている。 各地区まちづくり会議は、地域住民自らが地域の課題をテーマに議論し解決策を考えていく場として、特に地域の「防犯・防災」への取組みが各地区で動き始めている。 現在のまちづくり協議会メンバーの任期が平成19年3月末で終了。基本的には現メンバー継続とし、引き続き、現在協議中の課題について議論を深めていくよう依頼する。	市民
		各福祉のまち推進センターと情報交換を行い、従来の基本的活動事業に加え、今年度から機能強化する事業に助成 5か所	5福まちセンターに合った機能強化事業ができた。 今後も機能強化事業に取り組むための支援を行う。	保健福祉
	生活道路の除雪、公園の再整備計画等の策定や自転車利用者への街頭啓発、広報活動、子育て支援など、地域住民との協働による手法を検討し実施する。	新たな生活道路の除雪手法について、市民懇談会(2回)を開催し、意見交換によって出された課題を基に、満足度を高める除雪方法の取組みを実施 11町内会 白石サイクリングロードについて、町内会・交番と連携して自転車利用者の「マナー向上」を呼びかける街頭PRを実施。また、地元町内会や小・中学校、大学、まちづくりセンターと連携し、人と自転車に係る安全通行の喚起看板を8か所設置、3トンネル内の照明灯の増設、3トンネル内の落書消しを実施 上野幌白樺公園の再整備にあたって、アンケート調査やワークショップの開催によりリフレッシュ計画案を作成	市民懇談会によって、地域の課題が掘り起こされ、満足度を高める新たな除雪方法が見出された。 白石サイクリングロードについて、利用者のマナー向上が図られたほか、トンネル内の落書消しによる美化と照度アップにより一層の安全を確保 住民要望を取り入れた公園のリフレッシュ計画を作成 地域住民と協働して新たな除雪方法を確立 白石サイクリングロードについて、街頭PRを継続し、他のトンネルの照明の照度アップを検討 立案した公園のリフレッシュ工事を実施予定。新たに再整備箇所が出てきた場合は、同様に住民要望を広く聞きながら協働で計画案の策定にあたる。	土木
	市民参加の広報誌づくりの取組みとして、広報さっぽろ区版の読者モニター制度を開始、地元高校新聞局による特集記事の企画・制作、特集テーマで区民インタビューを掲載。 各種まちづくり活動を実践している区民の広報ラジオ番組出演	モニター意見により広報さっぽろ区版を改善、工夫 市民参加を計画通り推進、区民活動紹介により、内容がより身近になった。 広報区版モニターを継続実施、モニター会議を新規実施 広報さっぽろ区版作成への市民参加、広報ラジオ番組を継続	市民	
地域主催の子育てサロンをもみじ台小学校区に立ち上げ 区内11か所目	計画どおり推進 区内の未開設校区(2小学校区)の開設に向けて、関係機関・団体と検討	保健福祉		
企画提案の募集による協働型事業の推進	区民からまちづくり事業の提案を募り評価のうえ、区から提案団体に対して事業を委託、実施する。	6団体と契約を締結し事業を実施。 12月19日中間報告会、3月31日最終報告会を開催	昨年度に引き続き事業を実施している団体がある中で、新たにユニークな提案を寄せた団体もあるなど、まちづくりへの関心が高まっている。特に6団体のうち、3団体が大学生のグループであり、大学との連携も良好。前年度から継続している団体については、新たな視点を加える必要があり、さらなるレベルアップが求められる。 応募数が少ないこと、各事業の成果の生かし方、地域との連携のあり方など、これまでの事業の検証を含め、企画提案制度の見直しを行う。また、見直し作業と並行して、引き続き同制度による数件のまちづくり事業も実施する。	市民

【市役所改革の推進に係る重点取組】

重点取組項目	取組内容	18年度 取組結果	評価( )と来年度に向けた改善点・方向性( )	担当部
全庁的な接遇の向上	サービスアップセミナー、臨時職員研修を継続実施するほか、市民にとって必要な情報を提供するとともに職員が接遇向上を意識できるような庁内放送、接遇向上に向けた業務ハンドブックの作成、庁内案内の充実に取り組む。	サービスアップその他の取組向上に向け、サービスアップセミナーなど厚別区全体で各種研修を実施した。13研修 延べ1,170人参加 区の概要等をまとめた厚別区職員ハンドブックを8月に改訂し、庁内ホームページに掲載。マナーハンドブック実践の取組について、「マナー向上プロジェクト」で検討、3月から実施。 3～4月の窓口繁忙期に総合案内を実施。 市民部(戸籍住民課)では、職員意見を集約した「接客心得ガイド」を作成して6月に職員に配布したほか、課職場研修として接遇研修を9月に実施。 戸籍住民課窓口に「番号呼出システム」を運用開始したほか、整理券発行機の表示と戸籍係前の記載台や椅子のレイアウトを改善。また、戸籍届の窓口前のパーティションを低くして職員が来客対応しやすいように変更。	研修については、他部局で主催する研修も加わったため、時期やバランスを考慮し当初の予定を変更。 ハンドブックについて既存のものを活用し実践することが必要と判断し、その手法についてプロジェクトから提案。 番号呼出システム導入後の窓口アンケートで、プライバシーに配慮・分かりやすいなど95%から好評。 研修については、時期や回数を見直しつつ、内容の充実を図る。 サービスアップについては、プロジェクトからの提案事項を区全体で実施する。 窓口繁忙期の総合案内及び時間延長は継続予定。	市民
		税務部職員「接遇マニュアル(接遇の極意)」を作成、積極的に活用による接遇向上に向け周知。	<親切に対応してくれた>とお褒めの言葉を頂くなど、職員の接遇は確実にレベルアップ。 マニュアルの見直し及び職員に対して各種接遇研修等への積極的な受講を促す。	税務
		保険年金課の国保窓口で簡易整理券発行システム、国民年金窓口で職員呼出しチャイムを設置。事務室、受付窓口の案内表示板を充実。児童扶養手当の事務集中時期に会議室に受付会場を開設。担当窓口までの同行案内を励行。	簡易整理券発行システム導入により順番待ち苦情が解消。 今後もこれらの取組みを継続。	保健福祉
区民と区役所のコミュニケーションの改革	区政に関し区民が知りたい情報や、区民に積極的に周知していくべき情報を明確化し、広報誌はもちろん、ホームページ、パンフレット、出前講座など、周知媒体・方法を工夫した情報提供を充実していく。 また、来庁者アンケートの継続実施、意見箱の増設などにより区民の評価、意見を把握し、改善行動等につなげていく。	ホームページを運営する庁内横断組織「ホームページ委員会」を発足、各課による情報提供を推進し、行事情報や業務情報を掲載。 ウェブシティサポロのページと連携してイベント情報をリンク。 地区ニュースの取材・新聞投稿件数128件(前年度比11件増)。全件をホームページに掲載。 来庁者アンケートを実施。回答数1,763枚 区民意見箱を各階に設置により投書数。93件(前年度比33件増) 意見等を全職員に周知するとともに、検討結果をホームページに掲載。 厚別区や札幌市主催・後援のイベント、副都心で開催されるイベント情報を庁内で放送。イベント情報はまちづくりセンターや土木センターでも情報提供。	各課でホームページづくりができる体制を概ね構築。	各部
		税源移譲について各種説明会の開催など税務広報活動を実施。説明会等17回 604人参加 市税・道税・国税の3機関合同による「税務相談会」を開催。相談者数 32人、相談件数51件	ホームページのアクセス数及び地区ニュースの件数が増加。 来庁者アンケートについては、繁忙期を避けて実施したが、昨年の件数を確保。 ホームページの更新頻度(週5回更新)を維持し、ウェブシティサポロなどとの連携を強化。 19年度の地区ニュースの投稿数100件以上を維持。 来庁者アンケートについては16年度から3回実施し、概ね傾向を把握できたため毎年実施の必要性について検討。 アンケートで約9割から理解できたとの回答。今後も大きな制度改正の時には、同様な説明会の開催を望む声あり。	市民
		1階ロビーに「健康づくり情報コーナー」を設置し、区民の健康管理や健康意識の向上に努めた。(再掲)	今後も継続して実施	保健福祉
人の改革	区民に信頼される区政の確立のため、区全体研修のほか、各部において実務に直結する職場研修をこれまで以上に充実させる。	新任職員等を対象とした研修や制度改革があった事務に関する研修を実施したほか、専門的な外部研修にも参加 市民からの要望・苦情等に対する検討会などによりサービスアップ意識を高めたほか、プロジェクト(保護課)による事務改善にも取り組んでいる。 まちづくりセンターと区役所とのイントラ環境・市民部共有ファイルサーバーを活用して、文書の一元化管理を図るとともに、文書ファイルのバックアップシステムを強化した。	新採用職員への研修や問い合わせの多い事柄について職員に周知することで、市民に対するサービスの向上が図られた。 今後も実効性のある効果的な研修に継続して取り組む。	各部

重点取組項目	取組内容	18年度 取組結果	評価( )と来年度に向けた改善点・方向性( )	担当部
収入率・収納率の向上	高額案件を含めた整理方針の早期決定、積極的な滞納処分の実行・的確な滞納処分の停止等(市税)保険サービス員制導入による保険料の口座振替への推進強化、任意徴収から強制徴収への転換による滞納処分の推進等(国保)により、市税・国保収納率等の向上を図る。	「厚別区滞納整理事務執行方針」に基づき、滞納処分100件、給与照会212件、預貯金等の照会1,072件を実施したほか、高額滞納案件を中心とした部課長ヒアリングを6回実施。特に、再三の催告等にもかかわらず納税意思を示さない悪質な滞納者に滞納処分を実施。また、各事案のヒアリング後の進行管理を徹底して高額・困難案件の減少に努めた。	滞納額100万円以上の高額案件については、42件と昨年同期比で10件減少しており滞納整理が進んでいる。差押不動産の合同公売を実施するほか、インターネット公売を活用して公売の推進を図る。	税 務
		保険サービス員による外勤時の口座振替の勧奨、納付相談時の減免申請の受理及び手続の案内、短期証の窓口交付、滞納処分のための財産調査及び不動産の競売物件の裁判所への交付要求、長期滞納者を対象とした休日外勤納付督促並びに悪質滞納者に対する給与照会予告文書の送付及び相談の無い者に対する給与照会を実施。	これらの取組みの結果、収納率は2月末現在、現年全体で前年比2.04ポイントの増加となり成果を得た。これらの取組みについて継続していく。	保 健 福 祉
		道路占用料等の適正な執行管理を確保するため、研修及びチェック体制の強化を図りつつ、納期限が過ぎても未納の場合は適宜督促等を行い、現年度分は全額納付された。	適正な執行管理達成。 研修を更に充実するとともにチェック体制を強化する。	土 木
組織運営の改革	庁内ホームページの改善や、職員の自主的ネットワークへの支援などを通じて、職場内での情報の風通しを良くしていく。	部長会議や各部で役職者会議を随時開催するほか、部課長会議及び部庶務担当課長・係長会議を月1回開催。これらの会議の情報については、各種会議及び朝礼等により、共有化を図っている。朝礼、係長会議等は各部・各課で継続実施中 庁内ホームページには今年度「部長のリレーエッセイ」などの新たなコンテンツを追加したほか、既存のコンテンツもこまめに更新をし、職員が必要な情報を随時掲載している。また、更新情報をイントラメールで全職員に発信し、最新の情報共有に努めている。 職員ボランティア組織である「区まちづくり塾」の呼びかけで、玄関前にプリンターを設置し管理を行う「プチガーデニング」を実施し、組織横断的な自主的取組を進めた。	会議等を予定どおり実施。今年度から部庶務担当課長・係長会議を開催し、より情報の共有化を図った。 庁内ホームページについては、月平均アクセス数を前年度比で3倍以上増加させた。 定例の会議については、来年度も同様に継続していく。 庁内ホームページは、業務サポートをしていくためのコンテンツを充実、職員参加のページづくりをしていく。	各 部
	区実施プランはもちろん、その策定過程で設定した各部、課の目標や重点取組事項について、PDCAサイクルにより進行管理していく。	実施プランについては、各部の重点取組について四半期ごとに報告を実施し、進行管理を行った。	予定どおり実施。	各 部
歳出構造の改革/内部努力(コスト意識の徹底)	EMSの一層の浸透を図り省資源・省エネルギーの意識を高める。	使用量(区役所)の前年度比は、電気0.7%減、水道6.2%増、ガス5.1%増、熱19.0%減となった。 電気・水・廃棄物等使用量については、マネジメント会議及びEMS幹事会で四半期報告を実施し、EMS通信を庁内ホームページに掲載することで職員にも周知 各部において研修を実施 一般事務事業、閑居保全事業、公共工事についても幹事会に報告	予定どおり実施。参加型研修により職員の意識を高めることができた。 研修結果にもとづき、エコオフォス・エコドライブ行動チェック表を見直しする。	各 部
	事務事業の不断の見直しにより、効率的・効果的に業務を執行する。	税務部及び保健福祉部でファイルサーバを導入し、全ての部においてそれぞれ文書の共有化を行うとともに個人情報保護の徹底を図っている。	予定どおり実施。	各 部